

寸楮石呈は京東京より近信播磨今君免
角不順の支候日由不相更之清湯の即義と
遠途奈はと及之並に所推推養衣切之等折候也生尋存
正口未終始而天結清湖の天に利ハ借之四五日間
ノ不道は應に寒之候常無く閉口はト百寺ナ一同無
異旅行死在ハ唱テ而故神ヲ願候

カ生等去る三月三日上海着便船を得て先づ福島ニ
渡り四月十三日再び上海向着夏ニサ所品杭品を一
巡し四月十八日上海解纜長江を溯リ乾時金陵
の教都ニ赴心五月子の漢口に着同十日湖西有長

2

沙ニ向て出航只
身ノ旧蹟汨羅江
三日間滞留の程
口ニ歸り着更ニ旅
五日間の行程の由
月中勿頃歸朝
今圓の巡遊ハ先々
有之余ハ学生莫者
生モ黄陶せんとする
國士大夫の希望

此場は今君克
清波の即義と
三幸折後山生尋
上利ハ借ニ四五日
任ハ有寺ナニ同世
願候
此場得て先づ福
ニサハ品抗品を
漸リ暫時全後
十日漸而自長

2

明治 年 月 日

沙ニ向て出航只今洞庭湖と通過し屈原控
身の旧蹟旧蹟の辺を航行此五候長少
三日間滞留の縁定不陰ハ来々十七八日頃ハ再ハ
口ニ歸着ラズニ旅は衣を脱止へて京漢鉄道(頃日ハ
五日間の行程の通ニハ北京ニ向ハ可申この分ハ六
月中旬頃歸朝百陽仕可ク存居候
今圓の巡遊ハ先々清國官民共ニ評判宜しき方ニ
有之余ハ学生募集の爲ニ来ハルニハ清國留學
生モ董陶センとするハ文印の事務ハニ通セハ可ラハ清
國士大夫の希望モ獲取り交々考セハ可ラハ故ニ今

3

明治 年 月 日

早と遠しと甘ガ今
隨る得心存
會見ハ後所中
杯品の地撫耳
方有之百解ハ在
生を早の留學ハ
幸ナ早歸田ハ
依款ハ不可
聞し猶ハ留學
名モ存入ハ度申

通過し屈原控
一に五侯長少
十七八日頃、再心莫
漢鉄道(頂日)四
可申この方より六
仔店候
三評判宜しき方ニ
二小お清國留字
一ニ通せざる可らば清
らせざる可らば故ニ午

3

甲を遠しとせが今田の漫遊を止せたりと申聞ケル事
隨る得心なり相見え候總頼心撫等數多
會見な候所中より不得要領先生も見受候へ共
杯品の巡撫耳障揖武昌の張之洞の如き諸君の各
る方子有之耳障に在東京の學生監賀より一百名の留字
生を早急留置し取敢したく申越居目下其考中あり
幸子早急留置し取敢したく申越居目下其考中あり
仔依款を可しと申居張由賀の字校經營ニ
関し豫に留置し結るを即留置通がる卒其を教
名を春入水度申上只今結科等関し交際中

4

有之再心漢口
居候南京船
るを得が御れ近
宜しき方石井山田
同以より上海に於て
嶺山視察の爲に
閣下より直轄申上
清國民間の人士
候人物中より相当
諸品の四律振玉

止つたりと申聞ケル事
賀山撫等数多
夫先生も見受候へ共
之洞の如き諸君の各
賀より一石名の旨を
目下其考中なり
徳くと得て安んず
賀の字校程管に
通がる卒業を致
等の間し安ん中

4

有る再び漢口歸着の上はタメ分要領を得可と存
店候へ南京物買周語の管内巡視中より面會
るを得が御れ近來御遠目親直の許高く評判
宜しうなる石井山田に在りし如きも然る因即の存候
同様に上海に於て面會候南京に参りし相に依り
嶺山視察の書出候。留るをえ面會候はる吳々も
閣下は宜請申上吳々可と御傳言候はる候
清國民間の人士許に字校の招辨監賀り候居
候人物中より相当の者多し有之福品の陳寶琛
蘇品の羅維振玉通品の張寒言南語印書館の張

5

元清の符を符たる事
歴々深く日語戦
桑田等の関係候
於しも御賀の上の
一者不申を述べり
今度同様の許可を
有る御察候事
事相成候上
義録有りの事
同様の事候も御

内要領を得可存
内巡視中より面會
其の評高し評判
然るに却ての存を候
其の参りし相に候
面會存なきは其も
得言候と候
辨監買り候居
一福品の陳置買探
と南船印書館の張

5

元清の符はたる中の要領殊に福品の陳置買探の聞
一証と深く日清戦争の方面に大區四者得たりし事あり
桑田等の關係は深く早め他を信し居り候に
於ても其買上上の勢を力し居り候將來福運
一者不事と述よりあるいと可なる人物と云居り候桑田
今度の其の評可を得や王等と曰り信國各社の教
育も視察ある事相成南東も曰り中に加り候
事相成候上海より厚真三の二面を信置又福
義館等の其の事を加し大要相談相置候
同様の事業も其の成候候且多し候後要あり今

6

度の旅行、早稲田
得来の昇信を結
向歸朝を起の上
旅費所報の之日
五月十日

大隈伯

湖南巡撫端方
之且其言も其
可有候と存候
任候母も其

